

非核・平和宣言都市

核兵器の廃絶と平和を願う全ての
人々とともに行動することを決意し、
平成18年5月25日、『非核・平和
都市』宣言を行い、『日本非核宣言自
治体協議会』に加入しました。

平和首長会議への加盟

平成22年1月1日に『核兵器廃絶
に向けての都市連帯推進計画』に賛同
する世界各国の都市で構成されている
平和首長会議に加盟しています。

ヒロシマ・ナガサキ被爆ポスター展

毎年8月に、市役所本庁舎と香北・
物部支所で『ヒロシマ・ナガサキ被爆
の実相等に関するポスター展』を実施
しています。（令和8年度は8月7日
～28日の期間で開催予定）

黙とうをささげましょう

広島原爆忌
8月6日午前8時15分
長崎原爆忌
8月9日午前11時2分
終戦記念日
8月15日正午

香美市戦没者追悼式

香美市では、毎年、戦没者の追悼式
を行っています。
参列した方は、戦争の悲惨さと平和
の尊さを未来へと語り継ぎ、心豊かな
社会を築いていくことを改めて誓い、
戦争で尊い命を落とされた方々のご冥
福をお祈りしています。



『戦争中の暮らし』について お話をお聞かせください

広報委員会では、戦争中の暮らしにまつわる体験談
やエピソードなどをお持ちの皆さんから、当時のこと
についての投稿をお待ちしています。

募集する内容は、戦場での話ではなく、当時の生活
の中で感じた“戦争”です。「避難訓練や防火訓練」
「出征する兵隊さんの見送り」「物資が不足する中で
の日々の生活」「学校生活」「子どもたちの遊び」
「戦地からの手紙」「物資の供出」「言論統制」「海
外からの引き揚げ」など、暮らしの中の体験談をお寄
せください。苦しい生活の中での「ささやかな楽し
み」「心温まるできごと」などのエピソードでもけっ
こです。『戦争中の暮らし』に関しての写真提供も
大歓迎です。

また、ご親族から聞き取られた体験談でも構いませ
んし、エピソードをお持ちのご本人による投稿が難し
い場合、直接お話をお伺いすることもできますので、
その際はお気軽にご相談ください。

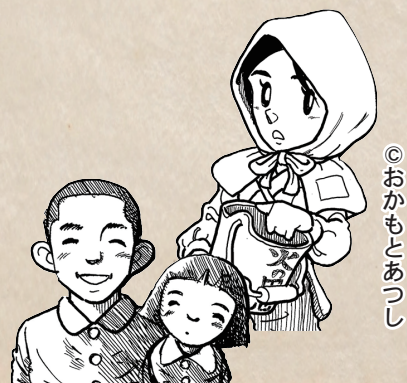
当時の“暮らし”を知ることが、戦争を語り継ぐ糸
口になるのではないのでしょうか。戦争体験者が少なく
なる中でも、多くの体験が若い世代に引き継がれます
よう、ご協力をお願いします。

- ◆投稿はできるだけ、300文字以内でお願いします。
- ◆投稿原稿に次のことを書き添えてください。
 1. 住所 2. 氏名（もしくはペンネーム）
 3. 年齢 4. 電話番号 5. メールアドレス（あれば）
- ◆締め切り：なし（随時募集）
- ◆問い合わせ・連絡先：香美市広報委員会事務局

電 話 0887-53-3112
メー ル kamikami@city.kami.lg.jp
住 所 〒782-8501（住所記載不要）
香美市広報委員会事務局
『戦争中の暮らし』係

※ 投稿いただいた内容は、
広報香美に掲載させてい
ただく場合があります。
また、投稿内容について
は、趣旨を変えず一部表
現を修正して掲載させて
いただく場合があります。

※ 詳しいお話をお聞かせいた
だきたい場合は、連絡させ
ていただくことがあります
ので、ご了承ください。



佐岡（土佐山田町）の空襲機を検証

（香美市文化財保護審議会 岡村）

昭和20年7月22日午前2時30分過ぎ、土佐
山田町佐岡国民学校を目標に、爆弾18発が投下さ
れ校舎が倒壊や半壊、駐屯部隊に多くの戦死者が
出て、線状に爆撃されたことで民家や住民にも犠
牲者が出た。防衛軍司令部からは発表が無く、詳
細は知られていない。住民は「秋葉山の方向から
爆撃機1機が上空を通過、北山の向こうで反転し
たらしく北西方向から南東へ一線に爆弾18発が投
下され、家屋数棟が全半壊し、戦死傷者が出た」
として伝承されている。

ここで検証するのは、爆撃機1機についてであ
る。当時、日本空襲の主力は米空軍であり、戦略
爆撃機B29、B24、B32が来襲との記録があ
る。その他にB17とB26爆撃機は、来襲の記録
がない。艦載機で小型爆撃機があるが、対象から
除外する。

昭和19年10月中旬、主力爆撃隊は中国奥地か
らマリアナ諸島に基地を移している。B29爆撃機
はマリアナ諸島から日本へ約2,300km、4tの
爆弾を搭載し、往復で15時間を要した。B24爆
撃機は、マリアナ諸島から4t爆弾では航続距離
が本土に届かない。硫黄島が占領されていたが、
B24が駐留した記録は見えないため、爆弾を搭載
せず関東地方南東沖の監視艇や漁船、小さな島飛
行場の制圧に使われたようである。ただ、沖縄の
伊江島飛行場にはB24の1個戦隊ほどが駐留し、
主として中国沿岸航路の封鎖をしていた。ここ
から本土空襲（広島^{ひろしまた}の向洋まで約1,100km）に、
数機で爆撃をした記録が数回ある。1,800kgの
爆弾で、航続距離が約1,500kmの性能である。
B32爆撃機は本土上空で数回確認されているが、
新鋭機の性能試験を兼ねた偵察任務と考えられる
ため、佐岡空襲の爆撃機はB29かB24のいずれ
かである。

佐岡に投下された爆弾は18発の陸用爆弾で、瞬
発式や時限式ではなく通常爆弾である。被害の程
度から、500ポンド（約227kg）か1,000ポ
ンド（約454kg）の可能性が大きい。B24は、
多くの場合1,800kgを搭載して出撃したとい
うことから、500ポンドで8・9発となる。B29
は、500ポンドで17・18発の4tということ
になる。このことから、B29である可能性が限り
なく高いと推測する。

昭和20年7月は、南方資源輸入ルートは停止、
日本敗戦の寸前であれば、B24が4tの爆弾で片

道攻撃の必要もない。決め手は、南南東から侵入
し、南南東へ離脱していること。マリアナ基地の
方向である。B24であれば、南西方向に離脱しな
いと燃料の心配があるのである。この爆撃機は、
洋上を低く安芸市沖あたりから陸地に入り、「馬
が逃げた」の騒動に、夜食のための炊炊所から漏
れる灯火を見て、高度1,000mほどで爆撃したと
思われる。多くの爆撃機乗員の記録からは、低空
侵入でレーダーを避け、上昇中であつたはずで、
四国山地を越す必要があつたのである。

前日21日は四国西部に台風が来て荒れており、
この日は台風一過の好天の星空が見えていたと思
われる。乗員の気持ちとしては、陸地奥に入れば
夜間戦闘機の心配もあり、高射砲にも撃たれる。
これらの危険を避けて「爆撃して家屋がスッ飛び
ました」と報告すれば十分で、燃料の節約にもな
り、下方で生起する惨劇に思いをすることはない
ようである。

この頃、B29の焼夷弾爆撃は常態化しており、
地方小都市も目標にされ、100機や200機の大
編隊で来襲していたが、この夜は空襲の被害記録
がない。少数や単機での攻撃は、反撃が集中され
撃墜される危険が大きいため編隊で行動するのだ
が、少数機で来たようであり、焼夷弾ではなく陸
用か艦船用の通常爆弾という点が腑に落ちない。
灯火制限下で明かりはなかったはずであり、照準
爆撃用の爆弾をどこに落とす予定であつたのだろ
うか。なお、当時は護土部隊と呼ばれる岡山の兵
300人ほどが佐岡にいたと言われており、夜間は
灯火制限を徹底していた。そのはずが、大型機の
反転旋回数分後に、まだ灯火は消されていなかった。
照準爆撃が正確に目標に命中している。駐屯
隊長の大失策で責任は大きい。

土佐湾は、連合軍の有力な上陸作戦海岸と見ら
れており、第55軍（原田熊吉中将）が司令部を新
改に置き、土佐湾東部に4個師団が展開して防備
に就いていた。

沖縄のように戦場となる可能性があつたことを
知っている人々も減り、伝承する以外にないが、
身をもって体験した者でないと、理解は難しい。
この空襲で亡くなられた方々の冥福を祈るととも
に、「日本の若者が銃を取る」ような事態になら
ないよう、切に願う。